

協力体制より強固に

IPH工法協会が総会開く

鉄筋コンクリート構造物を補修・補強する(一社)IPH工法協会(加川順一理事長)による第5回定例総会が8日、広島市中区のオリエンタル広島で開かれ、正会員42社のうち、37社(委任状含む)が出席。議案の審議や講演会、懇親会を行

い、技術的な交流、親睦を深めた。

開催に先立ち、挨拶に立った加川理事長は「会員の皆さんの努力とのおかげで5回目を迎え、徐々に普及してきた。全国状況を見ると、会員の不在地が10県ばかりあるが、市・町や県、国か

らの対応できるネットワークが必要であり、行政からの発注に対応するためには県内ごとに連携できる協力企業が要る。今後、技術面の構築も求められ、工法の性能を追求して社会的な評価を得ながらレベルアップするため、協会員相互の協力体



総会のもよう

制を強固に推進していく」と述べ、一層の協力・支援を呼びかけた。

そのあと、議事に入り、事業報告などを審議、全会一致で承認した。

その中で、事業活動については、「技能講習会(11回)の開催や技術指導員の派遣、展示会への出展として広島や熊本での技術フェアの開催、中部・北陸での建設フェアへの出展、防衛施設学会年次フォーラム、さらに、名古屋大学との連携で講演会の開催、東京都庁での試験施工の実施」などが報告され、今年度も引き続き、活発な事業計画の推進を申し合わせた。

その後、ジェイアール総研エンジニアリング顧問の西村昭彦氏が「IPH内圧充填接合補強工法の効果確認とコンクリート強度の推定法」について解説した。